

長浜市長
浅見宣義 殿

要望書

市立長浜病院と長浜赤十字病院に勤務する医師の大部分は、京都大学と滋賀医科大学の各診療科・講座の協力と支援を受けながら湖北地方の地域医療に従事しております。長浜市においては、両病院で共に急性期医療と慢性期医療を担っておりますが、医師不足の厳しい環境の中で各病院に勤務する医師たちの不断の頑張りで日々の医療が支えられているのが実情です。しかしながら、2024年から開始される医師の働き方改革の環境においては、これまでのやり方で地域住民の急性期医療を支えるのは極めて困難であり、特に夜間の緊急対応は不可能であろうと思われま

す。一方、2020年に滋賀県から提案されて厚生労働省から重点支援区域として認定された湖北地方の地域医療構想においては、湖北地方の病院を急性期病院1つと回復期・慢性期病院2つに再編する提案がなされておりますが、この構想はまさに地域住民に最良の医療（高度急性期医療も含めた湖北地域における地域完結型医療）を提供しながら、医師の働き方改革にも対応可能なシステムであります。さらに、この構想における環境下では、医療人の良好な人材育成が期待できることから、医師・看護師不足の中でも優秀な医療人を長期にわたって獲得できる可能性が高く、したがって将来を見据えた持続可能な医療環境を湖北地域に構築できるものであります。なお、両大学で各診療科・講座の責任者の意見を聴取しましたが、すべての診療科・講座の責任者から上記の地域医療構想に基づく病院再編を早急に進めてほしいとの回答を得ております。

以上の理由により、2020年に厚生労働省から認定された重点支援区域地域医療構想を基本的な考えとする病院再編計画を早急に進めていただくことを強く要望いたします。また、働き方改革の観点から、病院再編が進まない場合には、原則としていずれの診療科においても、市立長浜病院と長浜赤十字病院の双方に重複して医師配置の協力は困難であることをお伝えいたします。

令和4年6月22日

京都大学医学研究科長・医学部長	岩井一宏
京都大学医学部附属病院長	宮本 享
滋賀医科大学学長	上本伸二
滋賀医科大学附属病院長	田中俊宏